



UPKIシンポジウム2009

認証基盤を活用したコンテンツサービスの展開  
UPKI方面ではない人向けのコマ

---

国立情報学研究所  
学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
阿藪品 治夫

## 3つのキーワード

- ☑国際標準による認証方式の共通化

= Shibboleth (シボレス)の実装。

- ☑電子ジャーナルやDB毎の面倒なユーザ認証からの解放

= SSO (シングルサインオン)を実現。

とにかく  
これ!

- ☑利用機関と提供機関による連合体で共同運用

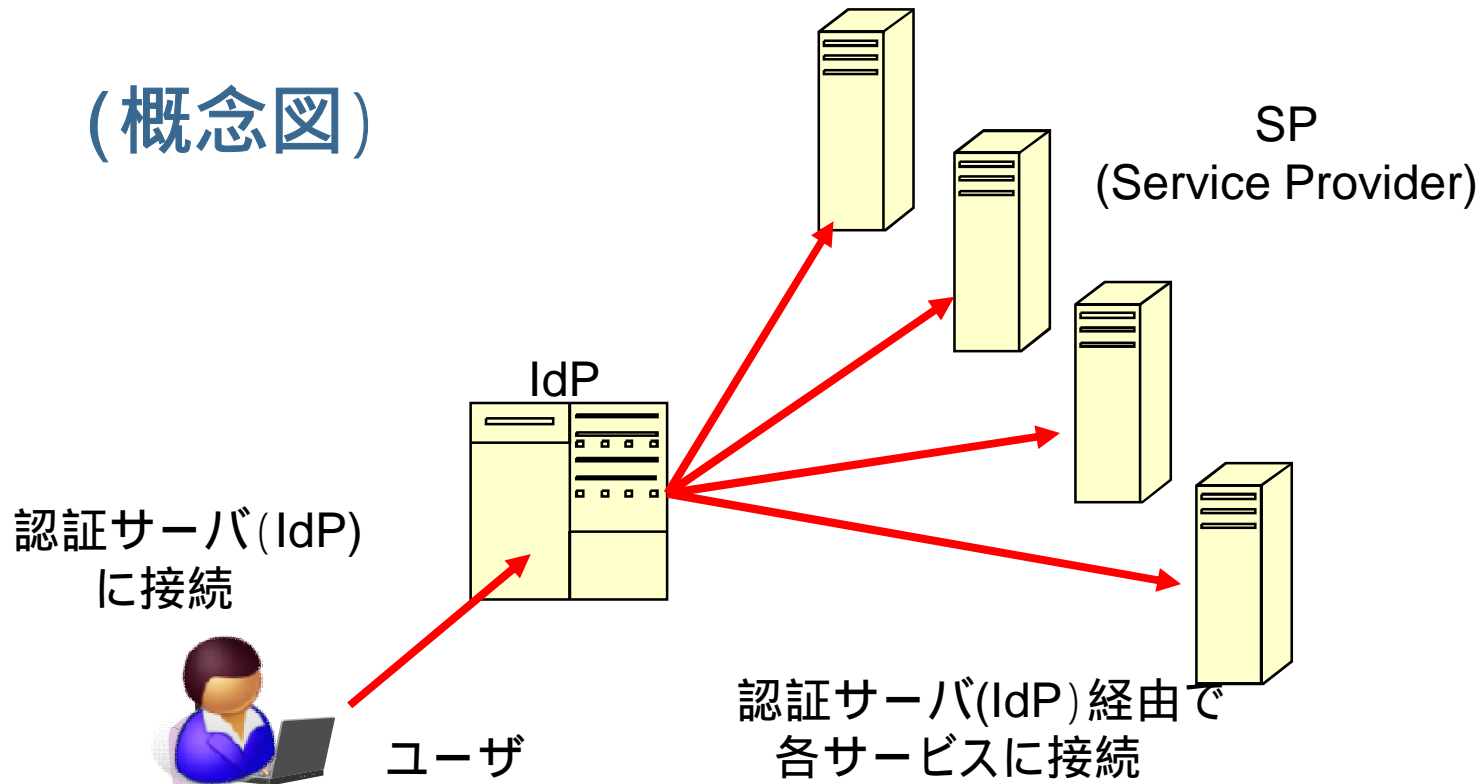
= フェデレーションの構築・運営。

# SSO (シングルサインオン) について

## シングルサインオン single sign-on

- 利用者が、1回のログイン手続きで、認証を必要とする複数のサービスを利用できるようにする仕組み
- 代わりにその1回のログイン手続きは十分セキュアにする

(概念図)



# シングルサインオンの流れ

各大学の  
利用者

電子ジャーナル等

IdP一覧表示 (DS)

所属する大学のIdP  
(Xdaigaku.ac.jp)

あなたは  
どこの誰？

(1) Aの論文を見たい。

(2) 認証されたらOKです。



E J サービス A

(3) 私は誰に認証してもらえばよいのでしょうか？ 大学一覧を見せて。

(4) はい、この中から選んでください。

(5) あった！ X大学のIdPさん、私がX大学の利用者だと証明してください。  
私のIDは で、パスワードは です。



(6) OK！確かにこの大学の人ですね。この認証情報を”アクセスしたいサイト”に渡してください。

(7) 認証されました。  
アクセスさせて。



E J サービス A

(8) どうぞご利用ください。



利用者

(9) Bも使いたい。この認証情報が使えますか？

(10) はい。どうぞ。



E J サービス B

(11) Cも使いたい。この認証情報を使えますか？

(12) はい。どうぞ。

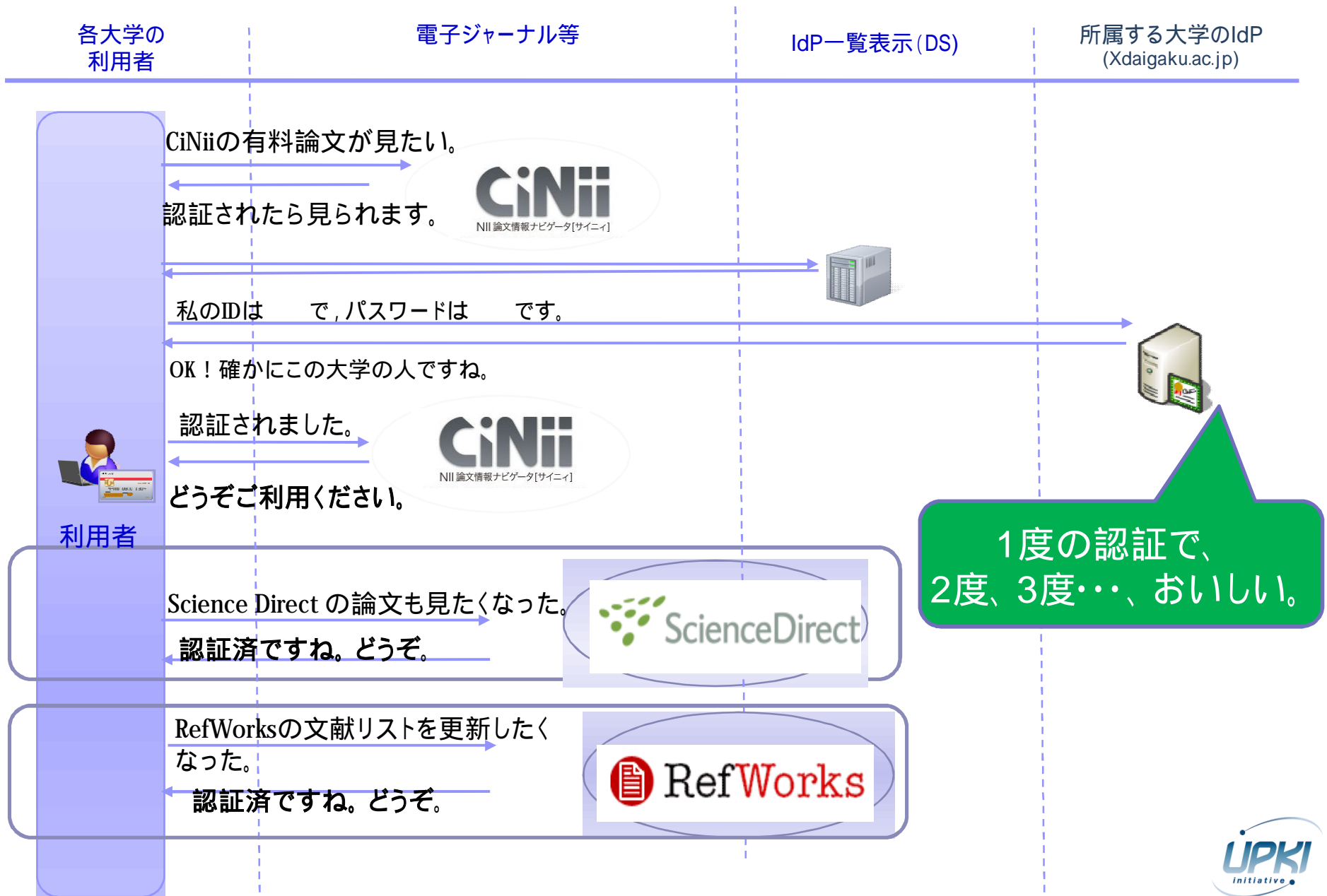


E J サービス C

シングルサインオン！

シングルサインオン！

# 現実のEリソースを当てはめると



# Shibboleth対応を標榜するベンダ

## - 大手有名サービスは軒並み対応 -

### Learning Management Systems:

- [Blackboard](#)
- [CLIX](#)
- [Fronter](#)
- [ILIAS](#)
- [INSTRUCT](#)
- [Moodle](#)
- [OLAT](#)
- [Sakai](#)
- [WebAssign](#)
- [WebCT](#)

### Other Systems:

- [Bodington.org](#)
- [Condor](#)
- [Confluence Wiki](#)
- [Darwin Streaming Server](#)
- [Drupal](#)
- [DSpace](#)
- [eAcademy](#)
- [Fedora Repository](#)
- [Google Apps/Email](#)
- [GridSphere](#)
- [GridShib](#)
- [Markets](#)

これら以外に、  
Nature、Wiley、OUP、CUP、  
RefWorks、他欧米の各Eリソース、  
さらにCiNiiも。  
Shib対応ベンダは続々増殖中！

- [WordPress](#)
- [Zope + Plone](#)

\* “<https://spaces.internet2.edu/pages/viewpage.action?pageId=11484#ShibEnabled-nsdl>より引用

# ユーザに必要な物はたった2つ

☑ インターネットが使える端末

☑ 1種類の自分固有のID / パスワード

を忘れないこと



# きっと皆がHappy

- ☑ ユーザはEリソースが使いやすくなってHappy。
- ☑ 図書館は多くのユーザに契約コンテンツが使われてHappy。
- ☑ ベンダは、PRにもなって、きっと契約も維持できてHappy。





# 国内初公開！これがシングルサインオン。

これより先は、映像にてシングルサインオンを実感して頂きます。

(一橋記念講堂以外の某所から生中継予定)

